【広島への思い】

今年４月、アメリカのオバマ大統領が広島を訪問されました。この話を聞いて、自分の中で平和に対する思いが変わりました。それは、待っているだけではなく、自分から行動することです。つまり、実際に広島に行って戦争の悲惨さや原爆の恐ろしさ、そして、平和の尊さを目で見て心で感じ、学んだ多くのことをこの報告会や各学校での報告会を通して多くの人に伝えていくということです。そして、学んだことを後世に伝えていき、二度と悲惨な戦争を繰り返さないようにする努力をすることです。これが、派遣団員としての役割であり、平和大使としての大きな使命だと思うからです。僕達は、この使命を果たすために広島で多くのことを学んできました。これからは、いつまでも日本が平和な国であり続けるために、平和に対する思いを多くの人に伝えていきたいと思います。

【平和記念資料館について】

僕は広島平和記念資料館の施設について説明します。僕たちが見学した広島平和記念資料館は、国指定の重要文化財になっています。また、建物は３階建てになっていて、本館と東館に分かれています。この資料館では、被爆者の遺品、被爆の惨状を示す写真や資料を収集・展示をするとともに、広島の被爆前後の歩みや核時代の状況を紹介しています。まず、東館には、原爆投下までの歴史や原爆投下の歴史的背景に関する展示があり、本館では、広島原爆の人的・物的被害に関する展示が行われています。特に良く知られているのは、原爆投下直後の壊滅した広島市街地の縮小模型、被爆死した３人の動員学徒が身につけていた制服の残骸を組み合わせて一体の人形に仕立てた「三位一体の遺品」や「黒焦げの弁当箱」などがあります。２０１３年時での収蔵品は約２万１千点に及びます。僕たちが見学したときは、リニューアル工事中のため本館しか見学できませんでしたが、当時の様子が痛々しく残る、多くの展示物がありました。

【平和記念資料館を見学して心に残ったこと】

僕は、平和資料館で見た原子爆弾の威力について発表します。原爆の爆発の瞬間、爆発点には起高圧がつくられ、まわりの空気が膨張して、強烈な爆風が発生しました。爆風により、爆心地から半径２キロメートルまでの地域ではほとんどの建物が倒壊し、崩壊を免れた場合でも内部の家具類はほとんど焼失し、人々は爆風によって吹き飛ばされたり、倒壊した建物の下敷きになって亡くなりました。爆風は鉄筋コンクリート造の建物を押しつぶしてしまうほどの威力がある事を知り、原爆の恐ろしさを改めて感じました。中でも一番印象に残った物は、３人の中学生の遺品です。僕達と同年代の学生服を見た時、どれほど悲惨な状態であったかが伝わってきました。

資料館を見学して原爆の恐ろしさを目と心と体で感じる事ができました。人々の命を奪う戦争は絶対にあってはならないこと、核兵器の無い平和な世界を実現しなければならないと強く感じました。

私は、原爆で被爆した方々の被害について発表します。原爆によって亡くなった方の人数は、今年の夏で３０万人を超えました。亡くなった方の主な被害は、やけど、放射線などです。

爆心地の近くの階段で座っていた人は、原爆投下直後、４，０００度という熱により、一瞬にして体の全てが蒸発してしまったそうです。爆心地から少し離れたところでは、全身の皮膚が溶

け、人にはみえないような方がたくさんいたそうです。

原爆から大量に放射線が放出したため、人体に深刻な障害が及ぼされました。脱毛した人や、白血病になる人が多くいたそうです。原爆投下直後に被爆した人もいますが、それだけでなく、救援活動をしていた人も、残っていた放射線によって被爆してしまいました。平和記念資料館には、白血病の人ややけどの人などの写真があり、とても心が痛みました。

私は、オバマ大統領が今年の５月に広島に訪問したことについて話します。オバマ大統領は、原爆投下国の現職大統領として初めて広島を訪問しました。その時に、折り紙で折り鶴を折ったり、メッセージを書いたりしました。折り鶴は４羽折られていました。ピンクと青と黄色と赤の４色の千代紙で折られました。４羽折られていたうちの２羽は、出迎えてくれた小・中学生に手渡し、残りの２羽は、メッセージに添えられてありました。小・中学生に手渡しした折り鶴もありました。英語で書かれたメッセージは、日本語にすると、「私たちは戦争の苦しみを経験しました。共に、平和を広め核兵器のない世界を追及する勇気を持ちましょう。」と、書かれてありました。平和でいたいと思えるのは、過去に戦争を経験しているからだと思います。

原子爆弾の威力、戦争の悲惨さ、命の尊さをしっかりと学べたと思います。

【平和記念資料館を見学して学んだこと】

私は、平和記念資料館を見学して学んだことについて発表します。

それは、「普通の生活」を送れるのは、ありがたいことだ、ということです。私は今まで、普通の生活はあたり前なのだと思っていました。しかし、原爆の被害の様子や、遺品の数々を見て、それは違うと思い知らされました。なぜ、戦争で苦しくても生活できていた人が、突然こんな目に遭わなければならないのか、と怒りが湧きました。それと同時に、突然「普通」と切り離されてしまうことは誰にでも起こりうるのだと気付きました。

今は時代が変わり、こんなに大きな戦争は起きないかもしれません。しかし、突然変わってしまうことはあり得ます。だから、今、「普通」に生活できていることに感謝したいです。そして、このようなことが日本でも、世界でも二度と起きないよう、様々な人に「事実」を伝えていきたいと思います。

以上